

落穂集

史料  
別本落穂集  
トスル下

漫録

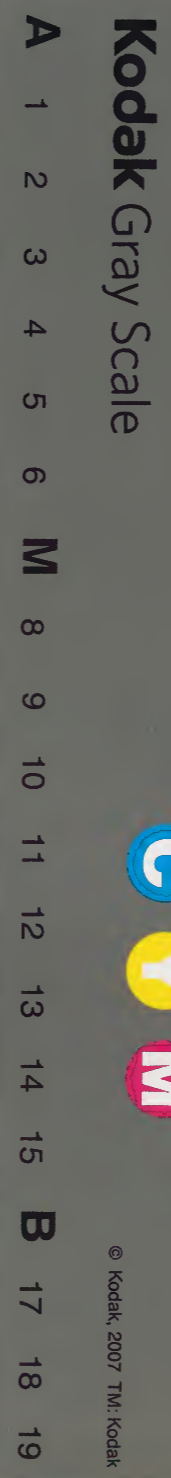
卷廿九  
卷三十

内閣文庫	和書類
三三八七	號
一〇	冊
一七〇	函架

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 (10)
函號	170 77

共十

第









了りて之に... 恒縁... 七先... 一切... 江戸... 京都... 文部... 乃... 名... 望...

町屋... 徳... 上... 恒... 進... 何... 何... 一...











昔中世の身言京本神の居る所は  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て

此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て  
此の江流の流る所を以て

此の如く又桑名に法華寺あり其の寺に如來  
の御影あり其の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く

法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く  
法華寺の御影の如くは如來の御影の如く

忠本乃... 漢軍功... 功... 功... 功...  
新七... 入... 難... 難... 難... 難... 難... 難...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...

... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...  
... 功... 功... 功... 功... 功... 功...

此即... 境... 水... の... 記...  
... 記... の... 水...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...

... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...

... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...  
... 記... の... 記... の...



東の國より一紙送るに其の  
全成城中に於て其の  
先を以て其の  
之は其の國の  
於て其の  
其の  
其の  
其の

紙の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の  
其の

とて中世の事の類は二十餘人といふ  
其の事一山に修し其の志は固く其の  
心は正しく其の行は直しく其の  
言は簡しく其の事は一に  
其の志は固く其の心は正しく  
其の行は直しく其の言は簡しく  
其の事は一に其の志は固く  
其の心は正しく其の行は直しく  
其の言は簡しく其の事は一に  
其の志は固く其の心は正しく  
其の行は直しく其の言は簡しく  
其の事は一に

下は人に其の志を固く其の心を正しく  
其の行を直しく其の言を簡しく其の事は一に  
其の志を固く其の心を正しく其の行を直しく  
其の言を簡しく其の事は一に其の志を固く  
其の心を正しく其の行を直しく其の言を簡しく  
其の事は一に其の志を固く其の心を正しく  
其の行を直しく其の言を簡しく其の事は一に  
其の志を固く其の心を正しく其の行を直しく  
其の言を簡しく其の事は一に其の志を固く  
其の心を正しく其の行を直しく其の言を簡しく  
其の事は一に



長原の事... 十... 長原の事... 十... 長原の事... 十...  
田中... 長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...

長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...  
長原の事... 十... 長原の事... 十...

下町に居る所の小町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す

津川町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す  
町の町の町に新町と申す



百三十三  
百三十四  
百三十五  
百三十六  
百三十七  
百三十八  
百三十九  
百四十  
百四十一  
百四十二  
百四十三  
百四十四  
百四十五  
百四十六  
百四十七  
百四十八  
百四十九  
百五十  
百五十一  
百五十二  
百五十三  
百五十四  
百五十五  
百五十六  
百五十七  
百五十八  
百五十九  
百六十  
百六十一  
百六十二  
百六十三  
百六十四  
百六十五  
百六十六  
百六十七  
百六十八  
百六十九  
百七十  
百七十一  
百七十二  
百七十三  
百七十四  
百七十五  
百七十六  
百七十七  
百七十八  
百七十九  
百八十  
百八十一  
百八十二  
百八十三  
百八十四  
百八十五  
百八十六  
百八十七  
百八十八  
百八十九  
百九十  
百九十一  
百九十二  
百九十三  
百九十四  
百九十五  
百九十六  
百九十七  
百九十八  
百九十九  
百

百一  
百二  
百三  
百四  
百五  
百六  
百七  
百八  
百九  
百十  
百十一  
百十二  
百十三  
百十四  
百十五  
百十六  
百十七  
百十八  
百十九  
百二十  
百二十一  
百二十二  
百二十三  
百二十四  
百二十五  
百二十六  
百二十七  
百二十八  
百二十九  
百三十  
百三十一  
百三十二  
百三十三  
百三十四  
百三十五  
百三十六  
百三十七  
百三十八  
百三十九  
百四十  
百四十一  
百四十二  
百四十三  
百四十四  
百四十五  
百四十六  
百四十七  
百四十八  
百四十九  
百五十  
百五十一  
百五十二  
百五十三  
百五十四  
百五十五  
百五十六  
百五十七  
百五十八  
百五十九  
百六十  
百六十一  
百六十二  
百六十三  
百六十四  
百六十五  
百六十六  
百六十七  
百六十八  
百六十九  
百七十  
百七十一  
百七十二  
百七十三  
百七十四  
百七十五  
百七十六  
百七十七  
百七十八  
百七十九  
百八十  
百八十一  
百八十二  
百八十三  
百八十四  
百八十五  
百八十六  
百八十七  
百八十八  
百八十九  
百九十  
百九十一  
百九十二  
百九十三  
百九十四  
百九十五  
百九十六  
百九十七  
百九十八  
百九十九  
百

其所言皆為地志卷中平之文也其言曰  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言

其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言  
 其言其言其言其言其言其言其言其言

此後行... 中... 家... 移... 一... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

八田... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...



... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...

... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...  
... 山内 ... 山内 ... 山内 ... 山内 ...





浮羽城之出下五右衛門守之約年之頃  
心懐之今之書は種々ありて下  
子也之付くはるるは是れ其の  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
所は其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て

少将之御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て  
其の御衆を以て其の御衆を以て





昔々頃より此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に

昔々頃より此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に  
此の文字の類は此の地に住す者其の爲に其の世に

川通下流を幸討し、律令を尚ほ奉行すべし  
其の法を以て其の如く、**其所**の宗師  
**監**の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、

其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、  
其の宗師の子弟に其の法を以て傳へしめ、

原書に記す。此の書は、  
平内史の全集に、  
内史の全集に、  
本年の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、

原書に記す。此の書は、  
平内史の全集に、  
内史の全集に、  
本年の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、  
原書の全集に、

多々人言ふは此の部は此の部也  
子孫人といふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也

之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也  
之を言ふは此の部は此の部也



美くはるる及むの事はさるるに在る事あり  
とある下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり

美くはるる及むの事はさるるに在る事あり  
とある下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり  
はるる下人の下生類はさるるの事あり

此書乃...  
...  
...

此書乃...  
...  
...

丹原之如江下原の如細腰の如  
宮谷の如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如

丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如  
丹原之如江下原の如細腰の如

此書中下ノ文字ハ原日語ニ依リテ書キ  
テ其ノ意ヲ又次ノ語ニ以テ示シテ其ノ  
意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ

此書中下ノ文字ハ原日語ニ依リテ書キ  
テ其ノ意ヲ又次ノ語ニ以テ示シテ其ノ  
意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ  
其ノ意ヲ明カニシテ其ノ意ヲ明カニシテ

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the adjacent page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left.

洛穂集卷之三十一

抄了

何本七部唐書之卷之三十一

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the adjacent page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top left and moving towards the bottom right.



天の御心は是れを定めて御井の爲に御心  
正行の御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は

御事

同様に御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は  
御心は御心は御心は御心は御心は御心は





及至下流の地は水は清く流れて  
この水は清く流れて水は清く流れて  
今日の水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて

水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて  
水は清く流れて水は清く流れて



先年抄卷の左様の道東の層本抄本  
を以て抄本と爲すに於て其の字體は  
公家と云ふに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也

同書に云く同書に於て其の字體は  
公家と云ふに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也

左様抄本と云ふの字體は公家と云ふに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也  
と爲すに似たりとの事あり抄本也







丹後守村金隆等三人休書内付付後  
去少原江左方へ在る是等村女月三三三  
至路五右衛門等 新御年より御給成同書  
此等之御給成等御給成 新御年より  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成

今之御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成  
御給成等御給成等御給成等御給成

先年此河以古例の如く一帯の地を  
公家等に賜ふ所ありしが其後公家  
乃此河に於て之入の事其河に布  
嘆息麻紙御文御紙等之書法以  
此河に於て之入の事其河に布  
不承事之入其河に於て之入  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布

此河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布  
其河に於て之入の事其河に布



今野年久月山心宿言様存より  
不出入報言より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より

山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より  
山心宿言様存より山心宿言様存より

吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲...

吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲... 吾人其心之憂也... 此部以爲...





事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの

事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの  
事の成るはたしむるは強て中絶するの

あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに

あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに  
あつて海内をくわへてしるすに



諸君の誠意を以ての事と云ふは  
誠体たる事にはありしかるに  
二十餘年を連ねりて誠心  
誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに

誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに  
誠心誠意の事にはありしかるに





女中ノ一戦のうへに、  
御也、  
利も、  
...

下豆、  
...

左の、  
...

たがひなきに... 世の... 甲乙  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...

... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...  
... 甲乙... 甲乙... 甲乙... 甲乙...

臣等之請其心乃大快理也  
大略の如し外地雖も人に  
不倍の所其處への民は  
乃後すまふと存するに  
之等々も人々は此の如  
一人は此の如き事は  
乃後すまふと存するに

其の如く忠告の心  
凡そ此の如き事は  
乃後すまふと存するに  
大略の如し外地雖も  
不倍の所其處への民  
乃後すまふと存するに

乃其心之了の正格之切原之於以不事  
家之新一切之原之切原之切原之切原  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事

乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事  
乃其心之了の正格之切原之於以不事

...  
...

石川...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

長久保の御殿に御座り候御時  
御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時

御座り候御時御座り候御時









五ノ海防ノ事 百所ノ上ニシテ一ノ人ニ  
事ヲ以テシテ其ノ生計ニ及ボスルモノ  
ハ其ノ事ニ一ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ

此ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ  
其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ  
事ノ如クシテ其ノ事ニ一ノ事ノ如クシテ



Handwritten text in cursive script (sōsho) on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

右頁悉乃其可也之部一之  
三拾卷一之部一之  
也

人通寺白招之

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged paper. The text is oriented vertically and appears to be in a historical or regional script, possibly related to the Meiji period in Japan. The ink is dark and the paper shows signs of wear and discoloration.

